

生物多様性保全への取り組み

富士通グループでは、生物多様性の保全に取り組んでいくことを重要な課題の1つとして捉えており、その活動を推進しています。

- [富士通の挑戦～生物多様性の保全～](#)

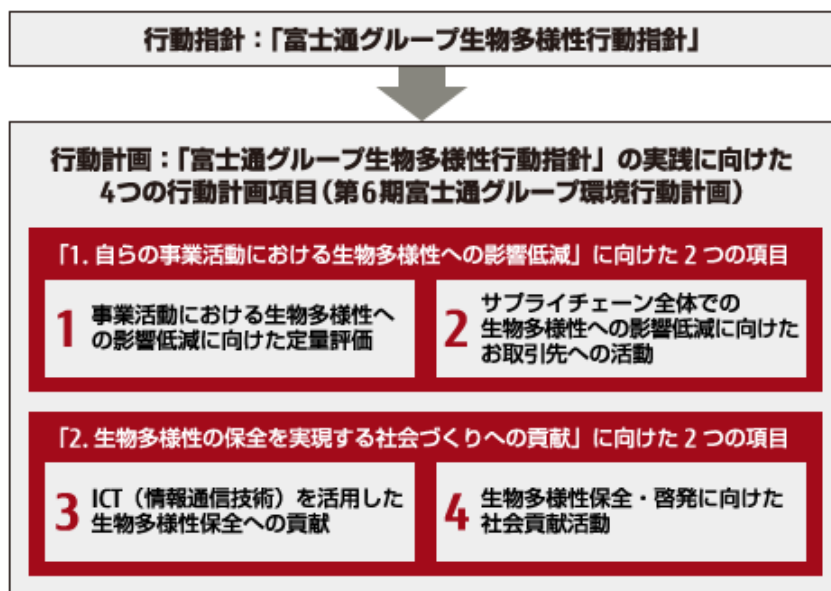


基本的な考え方

人々の暮らしは、地球がもたらす自然の恵みがあってこそ成り立っています。食料・木材の供給はもちろん、気候調整や水の浄化、またはレクリエーションなど、自然が人類にとって果たす機能は計りしれません。こうした機能を総称して「生態系サービス」と呼んでおり、それらを生み出す源が「生物多様性」です。昨今、地球上の生態系の劣化が進む中、持続的な生態系サービスを可能にするためには、生物多様性の保全が喫緊のテーマだと言えます。

こうした状況を受けて、富士通グループは生物多様性の保全を重要な課題の1つとして捉え、2008年5月に開催された生物多様性条約第9回締約国会議で「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」のリーダーシップ宣言に署名。さらに、そこに掲げられた全項目について、2020年までに具体的な取り組みを推進することを目標としました。

その実現に向けて、2009年10月には「富士通グループ生物多様性行動指針」を策定しました。その中で「自らの事業活動における生物多様性の保全と持続可能な利用の実践」と「生物多様性の保全と持続可能な利用を実現する社会づくりへの貢献」を活動のテーマとして掲げ、2010年度からスタートした第6期環境行動計画で4つの行動計画項目を定めて活動を推進してきました。



- [富士通グループ生物多様性行動指針](#)

さらに2013年度からスタートした第7期環境行動計画では、「社会との協働」「良き企業市民としての活動」という2つの目標の達成に向けて、さまざまな団体と協働してICTを生物モニタリングに活用する活動や、森林・里山を保全する活動など、社員自らが行う生物多様性保全活動を推進しています。

2012年度の取り組み

生物多様性への影響を定量評価

自らの事業活動が生物多様性にどのように影響しているのかを把握するため、2010年に富士通グループBD統合指標を構築し、主要事業領域の影響度を評価しています。2012年度は、主にエネルギー資源利用量の削減によって、2009年度比9.6%削減しました。今後も、事業活動による影響を把握する指標としてBD統合指標を活用していく予定です。

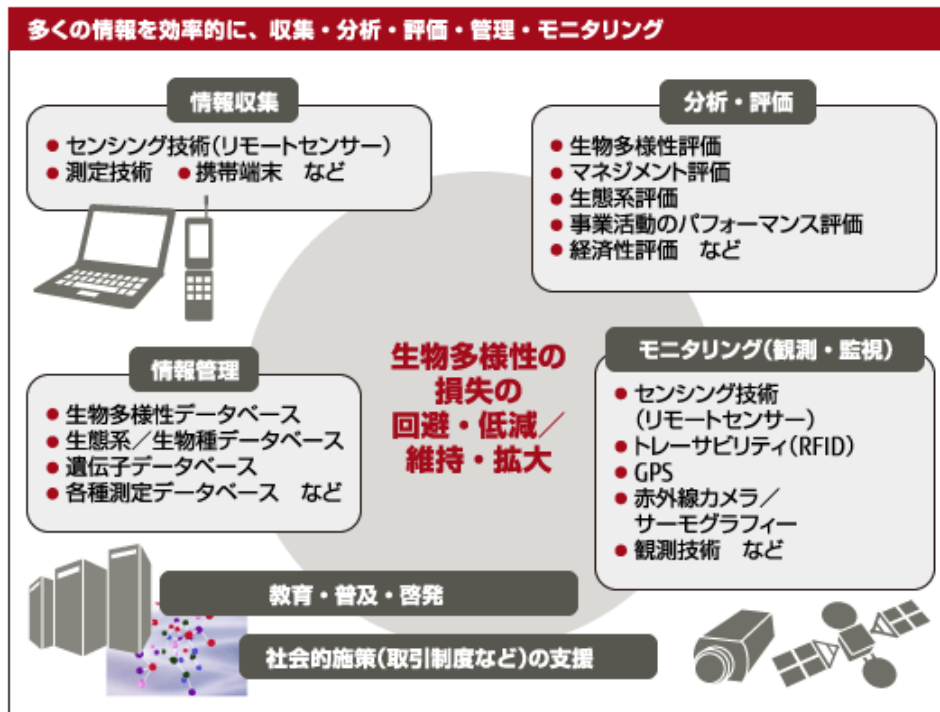
生物多様性保全活動の推進

生物多様性の保全を実現する社会づくりへの貢献に向けて、当社のマルチセンシング・ネットワークをタンチョウ保全に活用したほか、シマフクロウ生息域調査に音声認識技術を適用するなど、生物多様性保全活動の推進にICTで貢献しました。また、第6期環境行動計画の目標（環境社会貢献活動を国内は1回/年、海外は1回/3年で実施）に基づき、マレーシア・ボルネオ島での熱帯雨林再生活動、全国各地の森林・里山保全活動など、生物多様性保全・啓発活動を海外含めた対象434拠点すべてで実施しました。

ICTを活用した生物多様性保全への貢献

ICTを活用することにより、生物多様性保全に関する複雑で多岐にわたる情報を適切に収集、分析・評価、管理でき、生物多様性の損失の回避・低減や生物多様性の維持・拡大に貢献することができます。そこで富士通グループは、「携帯フォトシステム」を開発して全国タンボポ調査や多摩川植生調査を支援するほか、山梨県のワイン農家でマルチセンシング・ネットワークを活用し、生態系サービスの1つである供給サービスを担う農業の生産性向上にも貢献しています。

ICTによる生物多様性保全への貢献の可能性



2012年度は新たに、以下のICTを活用した生物多様性保全への貢献を実施しました。

- [生物多様性保全活動を行う10団体に生物調査ツールを提供](#)
- [【プレスリリース】 ICTを活用し北海道東部のシマフクロウ生息域調査を支援](#)

また、以下の取り組みを継続しています。

- [山梨県のワインファームでの農業支援活動](#)
- [釧路湿原周辺部のタンチョウ保全活動](#)
- [携帯フォトシステムを活用した多摩川植生調査](#)

生物多様性の保全・啓発に向けた活動

マレーシアでの熱帯雨林再生活動の推進

富士通グループでは、生物多様性の保全にグローバルな視点から貢献するため、タイ、ベトナム、マレーシアで植林活動を実施してきました。現在は「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」で、植林した苗木が熱帯雨林に成長していくよう、継続的にボランティアを募り、補植やメンテナンスを実施しています。

マレーシアのボルネオ島サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」では、2002年からサバ州森林開発公社の支援を受けながら熱帯雨林再生プロジェクトに取り組んでおり、富士通グループがグローバルで一体となって生物多様性の保全を行う場所、と位置づけています。2012年度は、富士通グループのブランドプロミス「shaping tomorrow with you」を合言葉に、世界中の富士通グループ社員とその家族が参加しました。イギリス、オランダ、オーストラリア、中国、カナダ、マレーシア、日本の世界7カ国から参加した64名が、現地の大学生や日本人学校の児童、保護者など約100名と共に、補植作業やメンテナンス体験で汗を流したほか、生物多様性について学ぶために熱帯雨林やマングローブ林の見学を実施しました。毎日30℃を超える気温の中での慣れない作業は非常にハードでしたが、熱帯雨林を守る活動に関われたことは参加者にとって非常に有意義な時間となりました。



メンテナンス体験



補植作業



現地ステークホルダーと富士通社員

また、富士通コワーコ株式会社では、回収した使用済みトナーの量に応じて「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」に寄付を行う「エコフォレストキャンペーン」を2009、2010年度に実施。2011年8月には2009年度分の寄付金でエコフォレストパーク内に作業者の休憩所となる東屋を建築、2012年11月には2010年度分の寄付金を使用して苗木6,000本を寄付し、「富士通コワーコの森」を設立しました。さらに2012年11月には富士通コワーコ社員が現地を訪れ、自社の森で植林活動を行いました。



2012年11月に設立した「富士通コワーコの森」

・ [富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパークでの熱帯雨林再生活動](#)

ブラジルでの植樹活動

ブラジルで事業を展開しているFujitsu do Brazil Ltda (FBR) では、荒廃した土地に緑を復元することを目的に2012年6月から植樹活動を開始しました。初年度の活動には23名の従業員が参加し、植樹を行いました。参加者の多くは植樹の経験がなく、非常に充実した時間を過ごすと共に、生物多様性保全に関する意識啓発を図ることができました。今後2年間、苗木の成長を支援していきます。



植樹エリア



植樹活動参加者

緑のカーテンの取り組み

富士通グループは生物多様性保全、また地球温暖化防止の一環として、毎年夏季に「緑のカーテンプロジェクト」を国内各地の事業所に展開しています。2012年度には富士通グループ33事業所で実施しました。

緑のカーテンとは、ゴーヤ、朝顔、へちま、ひょうたんなど、つる性の植物を建物の窓や外壁に沿って生育させ、緑化によって地域の生物多様性を豊かにする、また暑い日差しを遮り、日陰をつくることで室温の上昇を緩和するものです。収穫したゴーヤを社内で無料配布したり、社員食堂の特別メニューとして提供するなど、地産地消も実践しているほか、社員によって植えられた苗が日々すくすくと成長していく様子を間近で見ることができるため、社員に植物を育てる楽しさと癒しを与えてくれます。

事例

富士通セミコンダクター株式会社 あきる野テクノロジーセンター

富士通セミコンダクター株式会社あきる野テクノロジーセンターでは、ゴーヤ、ヘチマを植栽し、高さ4.5m、幅60mの緑のカーテンを作りました。「もったいない」を合言葉に、備品にも極力再利用品を活用。つる用ネットには海苔の養殖用網を、プランターには不要になったウエーハケースを使用しました。また、食堂から出た残渣から作った肥料や、構内緑地から出た腐葉土を使って育てました。収穫したゴーヤは食堂でメニューの1つとして提供し、センター内での地産地消にも取り組みました。2012年11月には、あきる野市主催の「平成24年度グリーンカーテンコンテスト」において団体部門の優秀賞を受賞しました。

活動日：2012年4月～2012年9月

活動場所：東京都あきる野市



富士通セミコンダクター株式会社
あきる野テクノロジーセンターの緑のカーテン



緑のカーテンコンテスト授賞式の様子

事例

富士通ソリューションスクエア

2008年から緑のカーテンプロジェクトを始め、5回目となる今年には、ゴーヤ、ヘチマ、アサガオなど合計336株を植栽し、緑化面積は260m²と広大になりました。さらに雨水収集ネットからプランタータンクへ貯水するオリジナルの雨水貯水システムを作ったほか、土の水分量センサーを増設して適切な水やりを行うなど、様々な工夫に取り組みました。苗つけや草取り、収穫には多くの社員が参加し、社員同士の貴重なコミュニケーションの場ともなっています。

活動日：2012年5月14日～2012年10月

活動場所：東京都大田区



富士通ソリューションスクエアの緑のカーテン

事例

富士通 大分システムラボラトリ

大分システムラボラトリでは、「緑のトンネルプロジェクト」を実施しました。2012年度はゴーヤ、ヘチマ、アサガオを植栽し、大分県の「平成24年度緑のカーテンフォトコンテスト」で事業所部門賞を受賞しました。緑のトンネルは日陰・蒸散作用による省エネに加え、トンネルを通るときに癒しを得られるといった効果もあります。収穫した大量のゴーヤは社員に提供しているほか、収穫した日本アサガオの種は、アサガオバンク活動として各地へ提供しています。これらの取り組みを通じて、緑のカーテンの輪をさらに拡大していきます。



大分システムラボラトリの緑のカーテン

活動日：2012年5月11日～2012年9月

活動場所：大分県大分市

・ [緑のカーテンの取り組み：過去事例](#)

社会への普及に対する貢献

富士通は、「ビジネスと生物多様性イニシアティブ (B&B)」や「企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)」などの外部団体に参加し、生物多様性保全の社会への普及に貢献しています。

B&Bは、生物多様性条約 (CBD) 第9回締約国会議 (COP9) において世界各国の40あまりの企業が「リーダーシップ宣言」に署名し発足したものです。それらの企業がそれぞれベストプラクティス (最良事例) を公表することにより、生物多様性の保全と持続的な利用をグローバルに促進しています。

JBIBは、多岐業種にわたる30以上の国内企業が参加している団体です。共同研究の成果をもとに他企業やステークホルダーとの対話を図ることで、生物多様性保全に貢献する活動を展開することを目的としています。富士通は、研究活動やツール開発に携わっています。